

北海道教育委員会「S-TEAM教育推進事業」
令和5年度（2023年度）授業研究(改善)セミナー

道北・地歴公民 実施報告



令和5年12月1日（金）、北海道旭川永嶺高等学校を会場に「地歴公民科における探究的な学び（主体的・対話的で深い学びの充実）とICT（一人一台端末）を活用した効果的な学習指導」をテーマとして、地歴公民科の授業研究セミナーを開催しました。道北ブロックの各管内から、12名の参加がありました。

本講座の実施内容等を紹介しますので、授業改善の参考として御活用ください。

実施状況

【学習指導案検討会】

本セミナーの研究授業の実施に向け、道立高校教諭3名、道教委指導主事3名から成る「授業研究チーム」を編制し、オンラインで学習指導案の検討を3回実施しました。第1回の学習指導案検討会では、生徒が既習知識を活用しながら現代の諸課題に関する問い立てを行う活動において、単元の指導計画やゴールイメージについて協議し、第2回及び第3回では、授業で提示する資料の精選や問い立てでの生徒への適切な手立てについての協議を行いました。グループで設定した問いの交流や生徒による評価等を通して、設定した問いをブラッシュアップするなどの案が検討されました。

【研究授業（実践発表）】北海道旭川永嶺高等学校 梅原 渉 教諭

政治経済（第3編「現代社会の諸課題」）の「これからの社会保障のあり方」において、単元を貫く問いを「今後日本の公的扶助はどうあるべきか」、本時のねらいを「主題となる問いに関連した適切な問いを設定することができる」と設定し、研究授業を行いました。本時の授業では、Google classroomに配信された



生活保護に関する新聞記事や公的扶助に関する各種資料をもとに、現代社会の諸課題に関してグループでどのような解決策があるか、具体的な問いを設定するために議論しました。

授業者による伴走の下、生徒はタブレットを活用して情報収集をし、自分たちが考える問いを見だし、各グループからは、「ベーシックインカムを継続して成功させた国が無いのなぜか」、「若い世代への生活保護をさらに手厚くするには」、「日本の生活保護の基準は高いのか、低いのか」、「日本の生活保護の捕捉率はなぜ低いのか」といった問いが発表され、日本の公的扶助には様々な課題があることに気付くことができました。

[学習指導案リンク](#)

QRコード



[ワークシートリンク](#)

QRコード



【研究協議】「公共における探究的な学びについて」

参加者は研究授業実施後にグループに分かれ、「研究授業を通じて考えたこと（ブラッシュアップ案も含む）」及び「公民科におけるICTの効果的な活用状況」を柱に研究協議を行いました。研究授業では、タブレットを活用し、情報収集を行いながら積極的に話し合う生徒たちの様子や、問い立てを行う生徒への授業者の関わり方につ



いての協議が行われました。一人一台端末を活用することで、各グループが作った問いをリアルタイムで共有することができることや、他のグループがどのような視点で活動しているのかを把握できるツールであることを確認しました。資料に新聞記事を用いて生徒に



興味関心をもたせる工夫や、発表後に授業者が価値付けを行うことで、次時の調べ学習及び発表への意欲につながる授業であったという意見や感想が出されました。また、効果的なICTの活用を含め、本セミナーを通して気付いたことや学んだことを、自校において還元し、今後の取組に生かすことができる協議となりました。

セミナー参加者の声

【参加者の声】

- 1年生の時に現代社会を履修し、基本的な知識が身につけている3年生だからこそその主体的な学びになっていると感じた。
- 探究する「問い」をグループ毎で生徒に考えさせるやり方は参考になった。
- 問いの設定に関して、参考となる事象等について各自で主体的に調べていく姿勢ができていた。
- 観点別学習状況の評価の具体について説明いただき、学習の質の向上に繋げるための評価・指導について学ぶことができた。
- 本日の授業より、早速3年生でのICT活用頻度をあげた。ネットリテラシーを含め、学びが深まるようなアプローチについても向上させたい。

【アンケートの結果（一部）】

- 1 教科における「探究的な学び」又は「主体的・対話的で深い学びの充実」に関する理解は深まりましたか。
 - ・おおいに深まった 61.5%
 - ・深まった 33.3%
- 2 今回のセミナーで紹介した教材や指導方法、研究授業、研究協議の内容等は、あなたの授業において活用できますか。
 - ・おおいに活用できる 46.1%
 - ・活用できる 46.1%